



2017年(平成29年) 11月15日

沖縄タイムス+プラス ニュース

大英博物館に沖縄の焼物 2作品 八重山の海イメージさせる「石垣焼窯元」

2017年11月11日 06:32 伝統工芸

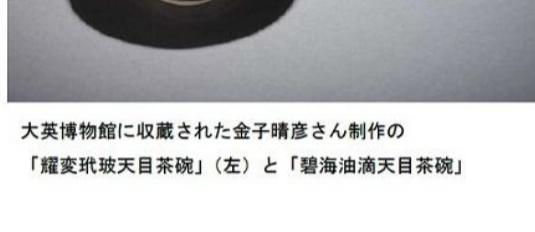
[シェア 184](#) [Tweet](#) [BI 0](#) [G+](#)

イギリスの大英博物館にこのほど、沖縄県石垣市名蔵の「石垣焼窯元」当主・金子晴彦さん（56）の作品「耀変玳波天目（ようへんたいひてんもく）茶碗」と「碧海油滴天目（へきかいゆてんもく）茶碗」が収蔵された。沖縄県内陶芸家の作品が、世界最大級の博物館に収蔵されるのは名護市の仲村勇さんに続き2人目。金子さんは「2点の収蔵は珍しく、世界一の美術館に認められて大変名誉。作品を通して八重山、沖縄の海や自然をPRしたい」と喜びを語った。

福岡県出身の金子さんは約19年前に石垣島へ移住。作品はガラスと陶器を融合させ、八重山の鉱石で沖縄の海をイメージさせる鮮やかな青を発色させるのが特徴。2014年12月に大英博物館で関係者に作品を見せた際に気に入られたといい、約2年の審査を経て9月20日に収蔵された。

「耀変」は10年の制作で、茶色の器に光を当てると宝石をちりばめたような虹色の光沢を帯びるのが特徴。「碧海」は15年に千年前の技法や釉薬（ゆうやく）などを再現して制作し、光の角度によって銀色が赤などに変化するなど、鉄本来の色合いを出した。

金子さんは昨年11月に陶芸専門のヨーク美術館（イギリス）に別作品が収蔵されたことなども含め、「総合的に評価された」と説明。大英博物館側から形や重さ、口当たりなど「全て最高」と評されたという。



大英博物館に収蔵された金子晴彦さん制作の

「耀変玳波天目茶碗」（左）と「碧海油滴天目茶碗」



大英博物館に2作品が収蔵された

「石垣焼窯元」当主の金子晴彦さん

琉球新報

▶ English お知らせ ▾

トップ | 写真・動画 | 特集 | 社説・コラム | 人事・評報 | イベント | 今日のニュース | 電子新聞 | 検索

主要 | 政治 | 経済 | 社会 | 国際 | スポーツ | 地域 | くらし | 芸能・文化 | 教育 | エンタメ

芸能・文化

大英博物館に沖縄陶芸 金子さん作品「八重山、世界へPR」

2017年11月10日 07:30

大英博物館 石垣焼 金子晴彦 耀変玳波天目 碧海油滴天目茶碗

いいね！ 0

シェア

B! 1

ツイート

G+

共有する

【石垣】世界最大級の博物館である英国の大英博物館にこのほど、石垣市名蔵の石垣焼窯元当主の金子晴彦さん（56）が制作した「耀変玳波（ようへんたいひ）天目（茶碗）」と「碧海油滴（へきかいゆてき）天目茶碗」が収蔵された。同博物館に作品が収蔵された県内の陶芸家は、名護市の仲村勇さんに続き2人目。

「耀変」は2010年に制作した作品で、器に宝石をちりばめたように光を受けると虹色の光彩を放つ。「碧海」は千年前の技法を再現したうわぐすりを使用した作品で、鉄本来の風合いがじみ出ているのが特徴だ。

両作品ともガラスと陶器を融合させることで、沖縄の海を表現した鮮やかなグラデーションの青色が器の底で輝いている。9月20日に収蔵された。

大英博物館への収蔵が「夢だった」という金子さんは「非常に名誉なこと。世界中から訪れる来館者に、石垣島や八重山をPRすることができる」と喜びを語った。

「陶器とガラスを融合させた点などが評価されたと思う。新たなジャンルを切り開き、さらに良いものを作りたい」と表情を引き締め、創作意欲を燃やした。



大英博物館に収蔵された「耀変玳波天目（茶碗）」（左）と「碧海油滴天目茶碗」（石垣焼窯元提供）



金子晴彦さん

